

# 『発掘宇治'22』

令和4年度 発掘調査・文化財速報



庵寺山秋の一般公開 (11月)



瓦塚古墳発掘調査 (1月)



宇治市街遺跡発掘調査 (9, 10月)



大幣神事 (6月)

# 名勝 宇治山

指定 2018 年（平成 30 年）10 月 15 日 指定面積 257030.9 m<sup>2</sup>

名勝とは、文化財の種類の一つで「庭園、橋梁、峡谷、海浜、山岳その他の名勝地で我が国にとって芸術上又は観賞上価値の高いもの」について国または地方公共団体が指定を行ったものとされている。

宇治川が峡谷から出て氾濫原低地を形成する地域は、往古より交通の要衝をなし、平安時代に貴顕の別業が数多営まれて以来、優れた名勝地として広く知られてきた。宇治山は、その谷口を巡って峰を連ねる仏徳山、朝日山などを含む丘陵地の総称である。古来より数多くの秀歌が詠み継がれ、『古今和歌集』（10世紀初頭）に収められ、『小倉百人一首』にも選ばれた喜撰法師の有名な「わが庵は都のたつみ然かぞすむ世をうち山と人はいふなり」をはじめとして、『新古今和歌集』（13世紀初頭）に収められた藤原公実の「ふもとをば宇治の川霧たちこめて雲居に見ゆる朝日山かな」など、名勝地たる基層を育んできた。14世紀以降には紀行文・地誌等にも数多く取り上げられ、江戸時代後期から近代にかけては、『宇治名所古跡之繪圖』（江戸末期）などに見られるように、北西方から宇治橋を左中ほど手前に、平等院を右下に宇治山を鳥瞰する図郭で紹介されることが広く普及し、名勝地たる宇治の枢要を成した。そのうち、今般は、宇治川右岸の仏徳山、朝日山、二子山に、興聖寺、宇治上神社、宇治神社、恵心院の境内地などを含む範囲を名勝に指定し保護するものである。（引用元：文化庁国指定文化遺産オンライン「史跡名勝天然記念物 宇治山」）



**二子山**  
古墳時代中期に属する直径40m余りの円墳2基がなす二つの高まりから二子山と呼ばれ、宇治山に一連の風致景観をなしている。

**仏徳山（標高131.8m）**  
宇治山において最高峰を占め、その南東に朝日山の小丘を連ね、古くはこれらを合わせて朝日山と呼ばれていたと考えられている。

**興聖寺**  
淀藩主永井尚政が再興した。現在境内には京都府指定史跡の「淀藩主永井家墓所」が存在する。

**恵心院**  
真言宗智山派の寺院。『源氏物語』作中の寺「往生院」のモデルとされる。現代においては「花の寺」としても有名である。

**宇治上神社**  
『延喜式』神名帳にある「宇治神社二座」のうち一座。菟道稚郎子・仁徳天皇・応神天皇の3柱を祭神とする神社。現存する日本最古の神社建築とされる。

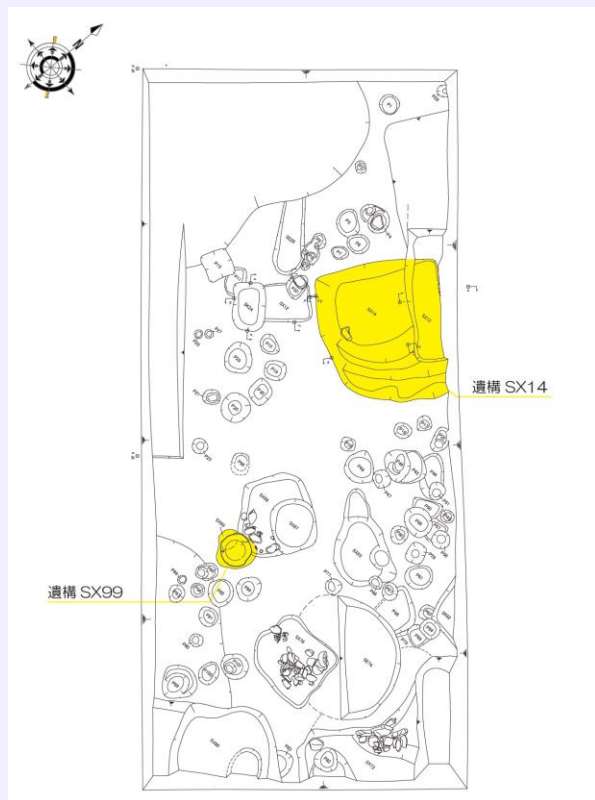
**宇治神社**  
『延喜式』神名帳にある「宇治神社二座」のうち一座。菟道稚郎子一柱を祭神とする神社。

**宇治橋三ノ間**  
豊臣秀吉は宇治茶を好み、宇治橋三ノ間から汲み上げた水を使って茶会を開いたという故事にちなみ、宇治茶まつりで名水汲み上げの儀が執り行われている。

## 今年度の発掘調査概報 「宇治市街遺跡(川西地区)」

この発掘調査では、2つの時代の生活面を確認することが出来ました。

上層では、柱穴や土坑など、多数の遺構を検出しました。特徴的な遺構として SX99 があり、瓦質甕が埋められています。遺構より出土した遺物から、上層は中世から近世の生活面とみられます。特に、土坑 SX14 から最も多くの遺物が出土しました。下層の生活面でも遺構を検出しましたが、遺構から遺物が出土しなかったために、年代は不明です。



遺構平面図



発掘状況 (SX14)



発掘状況 (SX99)

## 今年度の発掘調査概報 「瓦塚古墳」

現在、宇治市では、宇治古墳群の歴史的な価値を明らかにし、保存等の措置を検討するために、宇治古墳群を構成する古墳の範囲や内容を把握する調査を実施しています。今年度は、瓦塚古墳の範囲を把握するために、発掘調査を実施しました。その結果、全ての調査区で周濠がみつき、検出した周濠の位置を測量して確認したところ、古墳をめぐる事が明らかとなりました。今回の調査では、埴輪や須恵器といった遺物が出土しました。



昭和62年度撮影



令和4年度発掘状況(1)



令和4年度発掘状況(2)